

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

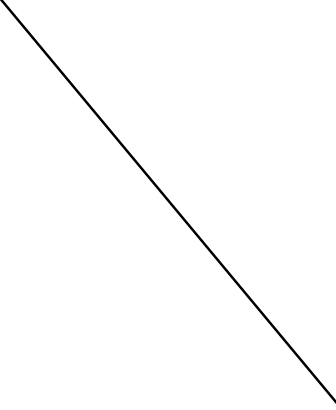
＜嶺北地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立でが数量的に見える形で示すこと〉
<p>1-1 れいほくブランドの園芸産地の維持</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>「環境」、「安全・安心」をキーワードにした園芸品のブランド化を行っているが、農業所得の向上を図るため、「れいほく八菜」、「れいほく八花」の収量・品質の向上を図る。また、地産地消を図るため、直販向け野菜の生産・販売の充実に取り組む。</p> <p>【JA土佐れいほく(園芸部会、花き部会)、直販生産部会土佐町支部】</p>	<p>「れいほく八菜」</p> <p>○れいほく八菜販売額は、21年:2.1億円、22年:2.2億円、23年:2.1億円とアクションプラン等で取り組むことにより、下げ止まりから現状維持の状態となっている。</p> <p>[具体的な成果]</p> <p>○シシトウプロジェクト(町村のオフトークによる新規栽培者の声かけ・勧誘)により、生産者79名→85名へと増加した。</p> <p>○嶺北地域での新規就農者数:14名(H22.6/2~H23.6/1)でそのうち、H24年新規農協出荷は、8経営体が増えることになった。</p> <p>○23年栽培の米ナスは出荷量150,204kg(昨年:139,702kg)前年対比:107.5%、販売額5421万円(昨年:4503万円)、前年対比120%、10a平均収量8.7t(昨年:7.3t)前年対比:121%とアップしている。</p> <p>◆れいほく八菜の生産者数は、平成16年をピークに、生産者の高齢化や後継者不足などにより年々減少しており、23年度から担い手の発掘・育成に向けた新たなプロジェクトを開始し、地域の関係機関、農業者が一丸となって嶺北の園芸産地を維持していく取り組みを推進しているが、農家数の減少傾向は続いている。</p>	<p>【農業担い手の発掘・育成】</p> <p>関係機関への協力要請、啓発:3回 移住促進連絡会での情報交換:2回 生産者へのアンケート調査の実施:シシトウ部会 就農計画作成支援:1件 担い手支援に係る勉強会:1回 米ナス部会の経営実態及び意向把握、啓発:現地検討会2回、個別巡回1回</p> <p>【れいほく八菜】</p> <p>現地検討会:シシトウ部会:1回、プロジェクト会1回 カラービーマン部会:2回、米ナス部会:2回 ホウレンソウ部会:1回、ミニトマト部会:1回 天敵の推進:講習会:2回、天敵リレー3回 土壌溶液分析:4回、分析点数52点、分析農家38名</p>
<p>1-2 れいほくブランドの園芸産地の維持</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>「環境」、「安全・安心」をキーワードにした園芸品のブランド化を行っているが、農業所得の向上を図るため、「れいほく八菜」、「れいほく八花」の収量・品質の向上を図る。また、地産地消を図るため、直販向け野菜の生産・販売の充実に取り組む。</p> <p>【JA土佐れいほく(園芸部会、花き部会)、直販生産部会土佐町支部】</p>	<p>○販売拠点づくり</p> <p>・コープかがわ10店舗に、れいほくコーナー開設された。また、チラシによる共同購入と店舗でのれいほく八菜の販売が定着した。</p> <p>◆八菜ブランドの充実と販促活動の推進 販売拠点(コープかがわ)の充実 新たな販売拠点市場(大阪、高知)の定着</p>	<p>・販売促進企画会議等(5回)</p> <p>・販売促進チーム会(1回)</p> <p>・高知市内レストランとの打合せ(1回)</p> <p>・コープかがわとのうち合わせ(1回)</p> <p>・コープかがわ販売促進活動(販売会議1回、配送センター職員研修会1回、出前授業1回)</p> <p>・県内での販売促進活動(1回)</p>
<p>1-3 れいほくブランドの園芸産地の維持</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>「環境」、「安全・安心」をキーワードにした園芸品のブランド化を行っているが、農業所得の向上を図るため、「れいほく八菜」、「れいほく八花」の収量・品質の向上を図る。また、地産地消を図るため、直販向け野菜の生産・販売の充実に取り組む。</p> <p>【JA土佐れいほく(園芸部会、花き部会)、直販生産部会土佐町支部】</p>	<p>○安定生産に向けた病害虫適正防除等の取り組みの実施</p> <p>○「ノーブル」球根供給システムの整理による出荷量の増加</p> <p>◆高品質・安定栽培技術の確立</p> <p>◆ブランド化による付加価値化</p> <p>◆「ノーブル」球根増殖に向けた取り組みの検討</p>	<p>○◆現地巡回指導(3回)</p> <p>○◆研修会実施(1回)</p> <p>○◆市場・中卸等の視察対応(2回)</p> <p>○◆ノーブル由来新系統の特性調査</p>
<p>1-4 れいほくブランドの園芸産地の維持</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>「環境」、「安全・安心」をキーワードにした園芸品のブランド化を行っているが、農業所得の向上を図るため、「れいほく八菜」、「れいほく八花」の収量・品質の向上を図る。また、地産地消を図るため、直販向け野菜の生産・販売の充実に取り組む。</p> <p>【JA土佐れいほく(園芸部会、花き部会)、直販生産部会土佐町支部】</p>	<p>○総合補助金を活用し、保冷車、コンテナ、集荷所などを整備(H21、22)。集荷システム(土佐町)の開設。</p> <p>直販用ミニレンタルハウス 導入戸数 35戸 総面積 約37a</p> <p>◆「直販生産部会土佐町支部」</p> <p>・栽培講習等による生産の安定</p> <p>・販売促進活動などによる販売の拡充</p>	<p>現地巡回1回(11戸)</p> <p>直販実務担当者会2回</p> <p>とさ千里での販売促進1回</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】「れいほく八菜」の販売額 (H19 3億円) (H22 2.2億円) (H22時点のH27推計値1.1億円) 【目標(H27)】1.6億円 【指標】「れいほく八菜」の生産者数 (H22延べ198人) (H22時点のH27推計値 71人) 【目標(H27)】136人 【指標】研修による新規就農者数 【目標(H27)】8人(累計)
<ul style="list-style-type: none"> ・コープかがわ八菜の販売単価向上 ホウレンソウ及び、三色ピーマンは150→170円、ミニトマトは150→165円。 ・高知市内レストラン14店舗との「米ナスフェア」開催(7/1～31)。 		
○病害の早期防除		【指標】「れいほく八花」の販売額 (H19 1.1億円) (H22 1.1億円) 【目標(H27)】1.1億円
直販部会売上28,009,795円(1月～4月)前年対比120%		【指標】売上額 (H23 7.8千万円) 【目標(H27)】9.5千万円

＜嶺北地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立だが数量的に見える形で示すこと〉
<p>2 ユズ産地の確立と加工・販売の推進</p> <p>《大豊町、本山町、土佐町》</p> <p>「環境」、[安全・安心]をキーワードにした園芸品のブランド化により、農業所得の向上を図るため、ユズのブランド化に向けた取組のレベルアップを行うとともに、ユズの加工・販売の促進に取り組む。</p> <p>【嶺北地域果樹(ゆず)産地協議会、JA土佐れいほく】</p>	<p>○強い農業づくり交付金の活用により新たなユズ加工施設を整備し、加工能力を向上させた(搾汁能力300t→800t/年、PET充填ラインと精油装置の導入)</p> <p>○ユズ出荷量 745t(H22)→770t(H23)</p> <p>○雇用の創出 正規 10人(H22)→13人(H23) 臨時 15人(H22)→18人(H23)</p> <p>○新たな顧客の開拓(H23年度新規5社、H23時点で果汁・製品・精油の販売先約300件)</p> <p>○ジュースラインの県版HACCP取得</p> <p>◆ユズ加工品の販路拡大 3.7億円(H21)→4.6億円(H22)→3.2億(H23 ※H24.1月時点)</p> <p>・衛生管理の徹底</p> <p>・販売チャネルの多角化</p> <p>・適正在庫の管理</p> <p>◆生産者価格の向上</p> <p>・酢玉品質の向上と青果生産の推進</p>	<p>・海外(シンガポール)での販促活動(1回)</p> <p>・生態調査(6回)、個別巡回指導(1回)</p> <p>・AP実務担当者会(1回)</p>
<p>3 集落営農で元気な地域づくり</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>地域農業の維持及び活性化を支える担い手として集落営農組織を育成するため、所得の確保及び向上につながる農業生産や拠点ビジネスにつながる農産加工、グリーンツーリズム等の取組を推進し、組織の継続性を確保する仕組みづくりを行う。</p> <p>【集落営農組織、集落営農組織に準じる組織】</p>	<p>○集落営農組織の育成(H20:3組織→H23:8組織)</p> <p>・こうち型集落営農組織(2組織)において、集落営農計画及び集落営農ビジョンを策定したことで、活動の方向性が明確になった。農作業受委託や農業機械の共同利用によるブランド米の安定生産や、新たな園芸品目導入されるなど、地域内での労力の活用や営農活動の強化が図られたことで農地の効率的利用、担い手育成にもつながった。</p> <p>・その他の集落営農組織については、農産物の高付加価値化と販売促進に向けた取り組み等により、集落での営農活動体制が整備されてきた。</p> <p>◆集落営農をマネジメントできる組織内人材の発掘及び育成</p> <p>◆関係機関と連携した組織支援体制づくり</p> <p>◆集落の合意形成手法、手順の最適化</p> <p>◆経費削減効果から所得向上への展開</p> <p>◆地域資源(人材、農地、機械等)を活用した組織の行動計画作成</p>	<p>○集落営農の推進及び体制整備</p> <p>・農業関係職員連絡会 本山町3回、土佐町2回、大豊町1回、大川村 1回</p> <p>・集落営農指導者研修会 2回</p> <p>○集落営農組織の育成</p> <p>・集落営農組織化打合せ(本山町本山区)</p> <p>○集落営農組織の継続性の確保</p> <p>＜伊勢川営農組合＞</p> <p>・集落営農推進委員会運営・助言 1回</p> <p>・直販加工部会 運営助言 4回</p>
<p>4-1 米のブランド化による稲作農業の展開</p> <p>《本山町》</p> <p>消費者が求めるブランド力のある米の生産により、価格のアップを図り、後継者が将来に展望を持つことができる稲作農業を確立するため、良好な水田環境など地域の特性を付加価値とすることや、室戸海洋深層水を栽培過程で使用することによる新ブランド米「天空の郷」の定着と加工品の開発による発展を図る。</p> <p>【本山町ブランド化推進協議会、(財)本山町農業公社、本山町酒づくり協議会、本山町】</p>	<p>○本山町ブランド化協議会(H20設立)で米販売店の講演会が開催され、美味しい米づくりのための栽培基準の設定と技術指導の徹底によりブランド米生産が開始した。</p> <p>○産振総合補助金の活用により色彩選別機、穀粒判別機等を導入し、高品質米出荷体制を整えることで、ブランド米「土佐天空の郷」の販売活動は全国展開した(H21～23)。</p> <p>○お米コンクール(H22お米日本一コンテストinしずおか)で優勝するなどブランド米としての知名度を上げた(H21～23)</p> <p>◆ブランド米の生産者と生産量の増加</p> <p>◆おいしい米づくり栽培の徹底と品質高位平準化</p> <p>◆ブランド米産地情報提供による販売PR</p> <p>◆直接販売の増加等による生産者価格の向上</p>	<p>○特産品ブランド化推進協議会および交流部会の開催(3回)</p> <p>○写真コンテスト募集中(前期3～8月)</p> <p>○田んぼアート植え付け(5/20)</p> <p>○栽培管理指導(4～6月 5回)</p> <p>○24年度栽培面積30.8ha、生産者37戸</p>
<p>4-2 米のブランド化による稲作農業の展開</p> <p>《本山町》</p> <p>消費者が求めるブランド力のある米の生産により、価格のアップを図り、後継者が将来に展望を持つことができる稲作農業を確立するため、良好な水田環境など地域の特性を付加価値とすることや、室戸海洋深層水を栽培過程で使用することによる新ブランド米「天空の郷」の定着と加工品の開発による発展を図る。</p> <p>【本山町ブランド化推進協議会、(財)本山町農業公社、本山町酒づくり協議会、本山町】</p>	<p>○「天空の郷」を活用した焼酎生産に向けた体制が整った(H23)</p> <p>◆「天空の郷」関係加工品(焼酎等)の生産と販路拡大PR</p>	<p>○◆「天空の郷」を使用した焼酎の事業検討</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】ユズ加工品の販売額 (H19 3.4億円) (H22 4.6億円) 【目標(H27)】6億円
○集落営農の推進及び体制整備 ・集落営農指導者研修参加者 のべ33名 ○集落営農組織の継続性の確保 ・共同管理の梅の収穫・加工(約90kg) (伊勢川営農組合)		【指標】経営発展及び地域貢献活動の実践組織数 (H22: 2組織) 【目標(H27)】8組織
		【指標】ブランド米の販売額 (H20 417万円) (H22 3,120万円) 【目標(H27)】1億円
		

＜嶺北地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>5-1 (株)大豊ゆとりファームを核として地域資源の活用により地域産業を持続化させる取組</p> <p>《大豊町》</p> <p>中山間で安心して住み続けることができる地域を実現するため、伝統製法や農業の6次産業化・環境問題など時代に即した切り口により、農業を中心とした地域産業を持続化させるために、拠点型ビジネスを展開する。</p> <p>【(株)大豊ゆとりファーム、大豊町碁石茶協同組合、大豊町】</p>	<p>○碁石茶について、一時期は大手取引先と契約し順調に販売できていたが、現時点では過年産の在庫をもつ状況となっている。新たな販路の確保やカートカンなど新商品の開発・販売を行っているが、同時に経営戦略の再構築を行う必要があり、23年度末に中期事業計画の策定を行った。</p> <p>◆碁石茶の加工品開発、碁石茶の茶葉や加工品の販路拡大</p>	<p>・高知市内量販店における碁石茶販促活動 延べ2日</p> <p>・高知県アンテナショップまるごと高知での販促活動 延べ1日</p> <p>・理事会の開催 延べ3回</p>
<p>5-2 (株)大豊ゆとりファームを核として地域資源の活用により地域産業を持続化させる取組</p> <p>《大豊町》</p> <p>中山間で安心して住み続けることができる地域を実現するため、伝統製法や農業の6次産業化・環境問題など時代に即した切り口により、農業を中心とした地域産業を持続化させるために、拠点型ビジネスを展開する。</p> <p>【(株)大豊ゆとりファーム、大豊町碁石茶協同組合、大豊町】</p>	<p>○出荷ルートの増による出荷農家の増、及び、生産者の出荷意識の向上</p> <p>○直販所の増による、生産者の出荷場所の確保</p> <p>◆集荷システムの取り組みについては、地域の過疎化・高齢化が進む中で、耕作放棄地の縮減など地域への貢献が高い取り組みである。新たな付加価値を持つ地域商品の開発などを通じて、取り組みの継続発展が求められている。</p> <p>◆地域産品の付加価値向上と販路拡大</p>	<p>・クールベジタブルの仕組みの販促PR活動 延べ3日</p> <p>・高知大学との協議 延べ2回</p> <p>・クールベジタブル協賛企業 1社</p>
<p>5-3 (株)大豊ゆとりファームを核として地域資源の活用により地域産業を持続化させる取組</p> <p>《大豊町》</p> <p>中山間で安心して住み続けることができる地域を実現するため、伝統製法や農業の6次産業化・環境問題など時代に即した切り口により、農業を中心とした地域産業を持続化させるために、拠点型ビジネスを展開する。</p> <p>【(株)大豊ゆとりファーム、大豊町碁石茶協同組合、大豊町】</p>	<p>○農作業受託の継続実施による耕作放棄地の増加防止が図られた。</p> <p>◆農作業の受委託、農地借入れの取り組みについては、地域の過疎化・高齢化が進む中で、耕作放棄地の縮減など地域への貢献が高い取り組みである。新たな付加価値を持つ地域商品の開発などを通じて、取り組みの継続発展が求められている。</p> <p>◆耕作放棄地対策の推進、各事業主体の経営戦略の構築</p>	<p>・農地借入での野菜等の栽培 (大豊町内のぜんまい農家より生ぜんまいを収穫、加工した。)</p> <p>・作業受託による耕作放棄地の対策の推進</p> <p>・クールベジタブル(独自のカーボンオフセット)など付加価値の向上の取組</p>
<p>6-1 JA出資型法人を核とする地域活性化の取組</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>農業者の減少に伴う農業生産の維持や担い手の確保、耕作放棄地の解消などの課題解決を図り農業所得の向上と就業機会を創出するため、新たな担い手としてのJA出資型法人が農作業受託や遊休農地等を活用した農業経営、就農希望者の研修事業などを実施する。</p> <p>米粉に関しては、米粉の製造・販売や米粉加工商品の開発・販売、関西圏をターゲットにした、安心・安全な食の提供による地産外商など、米粉を活用したビジネスを展開し、新たな雇用の創造につなげる。</p> <p>【JA土佐れいほく、(株)れいほく未来、米米ハート】</p>	<p>○JA出資型法人(株)れいほく未来 H23.4.1に設立・事業開始</p> <p>事業内容 農業経営事業、米粉事業、ライスセンター事業、育苗事業</p> <p>○新規雇用：2名(ふるさと雇用再生特別基金事業/県委託事業)</p> <p>◆経営の安定化</p> <p>◆地域農業への貢献</p> <p>◆米粉の高付加価値化</p> <p>◆販路拡大</p>	<p>●育苗実績：野菜・花約50,000鉢、水稻144,000枚</p> <p>●作付実績：園芸作物41a、新規需要米等200a</p> <p>●農作業受託：水稻関連300a、ハウス関連20a</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと〉	指標・目標
		【指標】碁石茶関連商品の総販売額 (H19 0.1億円) (H22 0.2億円) 【目標(H27)】0.5億円
キャラクターラベルによる新たなクールベジタブルの販売方法を開始 クールベジタブル 4月売上 69千円 (キャベツ) 5月売上 50千円 (スナップエンドウ) 19千円 (玉ねぎ、ニンニク) 6月売上 122千円 (スナップエンドウ)		/
・ゼンマイ約200kg(仕上げ乾燥待ち)の製品が製造		/
		【指標】農業経営事業(園芸)売上高 【目標(H27)】3,000万円 【指標】研修による新規就農者数 【目標(H27)】3人(累計) 【指標】事業主体への新規雇用数 【目標(H27)】2人(累計)

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜嶺北地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>6-2 JA出資型法人を核とする地域活性化の取組</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>農業者の減少に伴う農業生産の維持や担い手の確保、耕作放棄地の解消などの課題解決を図り農業所得の向上と就業機会を創出するため、新たな担い手としてのJA出資型法人が農作業受託や遊休農地等を活用した農業経営、就農希望者の研修事業などを実施する。</p> <p>米粉に関しては、米粉の製造・販売や米粉加工商品の開発・販売、関西圏をターゲットにした、安心・安全な食の提供による地産外商など、米粉を活用したビジネスを展開し、新たな雇用の創造につなげる。</p> <p>【JA土佐れいほく、(株)れいほく未来、米米ハート】</p>	<p>○米粉製粉工場の稼働、米粉パン工房のオープン等による米粉ビジネスの展開 ○米粉加工品の開発(パン、ラーメン、うどん等)の開発・販売、PR活動の展開</p> <p>◆米粉の高付加価値化(ブランド米粉としてのPR展開等) ◆新たな米粉加工品の開発・販売 ◆米粉、米粉加工品の販路拡大・PR活動の展開</p>	<p>・農工商連携基金事業の採択(事業費:4,967千円) ・商談会への参加(1回) ・米粉用米の作付:22ha(約100t/分) ・ブランド米(雲海の光)の作付:15ha</p>
<p>7 直販所「本山さくら市」を核とした地域活性化の取組</p> <p>《本山町》</p> <p>過疎化・高齢化の進行する嶺北地域の重要な食材供給拠点施設として、地域内外の集客力をより高めて販売額の向上を図り、地域を巻き込みながら、生産者の所得向上と活力ある地域づくりを目指す。</p> <p>【本山さくら市運営委員会、(財)本山町農業公社、本山町】</p>	<p>◆商品の充実 ◆情報発信機能の充実 ◆人材の育成</p>	<p>・さくら市役委員会の開催(1回) ・さくら市運営委員会の開催(1回) ・夏野菜栽培講習会の開催(1回) ・先進地視察研修の実施(1回) ・産業振興推進総合支援事業(ステップアップ事業)導入について協議</p>
<p>8 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興</p> <p>《本山町、土佐町、大豊町》</p> <p>土佐あかうしの産地を守り、地域の畜産振興を図るため、飼養者の競争力を確保するとともに、土佐あかうしの生産基地化を図る。また、繁殖・肥育の一貫経営を行い、生産と食肉加工から販売に至る畜産の6次産業化に向けた取り組みを進める。</p> <p>【JA土佐れいほく、(株)れいほく未来、飼養者、本山町、大豊町、土佐町】</p>	<p>○簡易放牧場の確保(3町×2ヶ所) ◆放牧場の適地が確保できなかったことから、土佐あかうしの増頭や新たな雇用につながらなかった。一方、嶺北地域では、土佐あかうしの増頭や施設整備の計画があり、その計画との関連性が見いだされれば、土佐あかうしによる地域の畜産振興の可能性がある。</p>	<p>・国庫事業(強い農業づくり交付金)の内示</p>
<p>9 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産の活性化</p> <p>《大川村》</p> <p>大川村の基幹産業である畜産の振興により地域の活性化を図り、雇用の確保、所得の向上につなげる。</p> <p>【(株)むらびと本舗、大川村】</p>	<p>○種鶏管理施設、孵卵施設、はちきん地鶏育成施設の整備 ○11名の新たな雇用 ◆飼養管理技術の習得 ◆繁殖雌牛の増頭及び高齢牛の更新</p>	<p>・関係者協議の実施</p>
<p>10 間伐の推進と素材生産の拡大</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>嶺北地域の豊かな森林資源を活かし、生産者の経営の安定化を図るとともに、地域に計画されている大型製材工場への木材の安定供給に寄与するため、木材の増産に取り組む。</p> <p>【森林所有者、森林組合、素材生産事業体、自伐林家】</p>	<p>○木材増産の大きな役割を果たす「森の工場」団地について、第1期(21～23年度)においては11団地が新規に追加され、管内全体では27団地9,780haとなり、管内民有林面積(56,821ha)に占める割合は17%となった。</p> <p>◆森の工場の拡大 ◆間伐、作業道開設の確実な実施 ◆事業体の育成 ◆担い手の育成確保</p>	<p>◆各事業体との個別勉強会の実施(9事業体)</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと〉	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・米粉・米粉加工品販売額(4月):2.083千円 ・米粉製粉量(4月):6トン 		<p>【指標】米粉等の販売額 (H21 4,300万円) (H22 5,199万円)</p> <p>【目標(H27)】1.6億円 (内訳) 4,000万円 (米粉等) 5,000万円 (米粉パン等) 7,000万円 (ブランド米等)</p>
		<p>【指標】販売額 (H22 1.39億円)</p> <p>【目標(H27)】1.8億円</p>
		<p>【指標】土佐あかうしの販売額 (H19:2億円) (H22:1.9億円)</p> <p>【目標(H27)】2.1億円</p>
		<p>【指標】黒牛の販売額 (H19:7.0千万円) (H22:6.5千万円)</p> <p>【目標(H27)】8.2千万円</p> <p>【指標】出荷羽数 (H19:1万羽) (H22:5.1万羽)</p> <p>【目標(H27)】10万羽</p>
○原木市場(とさ本山共販所)の再開(4/23)		<p>【指標】素材生産量 (H19:76,404m3) (H22:56,464m3)</p> <p>【目標(H27)】150,000m3</p>

＜嶺北地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>11 れいほくスケルトン(嶺北材の邸別販売)の促進</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>れいほくスケルトン(嶺北材の邸別販売)の促進に向けた取組により、嶺北材の販路拡大を図る。</p> <p>【土佐産商(株)、吉野川リビング(協)、土佐町】</p>	<p>○見学会・セミナー等による普及・PR活動、モデル住宅の建設による目に見える形での「れいほくスケルトン」の良さのPRに取り組み、また、関東方面への本格的な販売に取り組んでいたが、中心的な取り組みを行ってきた企業の経営破綻を受け、平成23年度に「嶺北材ブランド化協議会」は解散した。その後、地域内関係者による協議を重ね、新たな組織で連携を図りながら邸別販売を模索することとなった。</p> <p>◆邸別販売のコンセプト、ルールの見直し、新たな組織の設立、品質管理・チェック体制の確立、販売戦略の再構築</p>	<p>◆土佐材パートナー企業意見交換会参加【香川県:1回】</p> <p>◆「れいほくスケルトン」(嶺北材)の基準づくりに向けた協議【2回】</p>
<p>12 県産材の地域における率先利用</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>地域内で生産された木材や製材品は、大部分が県外へ出荷されていることから、地域内で率先的に利用することにより、地産地消を推進する。</p> <p>【民間事業者、本山町、大豊町、土佐町、大川村】</p>	<p>○公共施設等を木造施設や木造化の施設が増加することで、一般県民に対して木の温もりや良さを実感できる機会が多くなることで、木造化や木質化のPR効果が促進されることとなった。</p> <p>* 公共施設の木造・木質化の増加 ・本山町吉野に世帯用木造住宅2棟、四国銀行本山支店 案内板兼休憩所 大川村山村開発センター玄関ロビー内装、土佐町小学校 机・椅子導入</p> <p>◆公共施設の木造化や木質化、木製品の活用</p>	<p>◆ログハウス建設(事業費 4,995千円)【大豊町】</p> <p>◆土佐町役場庁舎エントランス建設中【土佐町】</p> <p>◆公共建築物における木材利用促進方針の制定【大豊町、本山町、土佐町制定済】</p>
<p>13 木工製品の製造・販売による地域の活性化</p> <p>《本山町》</p> <p>人に優しい木工製品の企画・製造・販売を促進し、嶺北産材の良さや手づくりの良さのPRにより、地域の新たな特色のある取組に育て、地域の活性化に結びつける。</p> <p>【ばうむ合同会社、本山町】</p>	<p>○机・椅子の販売数は目標値に達しなかったが、消費者ニーズに合わせた規格変更を行った。商品開発(もくれース、各種ノベルティグッズなど)を行い、売り上げを伸ばした。</p> <p>◆販路の拡大及び効果的なPR活動の展開</p>	<p>◆職員研修 1回</p> <p>◆キッズデザイン賞 申請</p> <p>◆グッドデザイン賞 申請</p> <p>◆防災グッズセミナー 出展</p>
<p>14 特用林産物(シキミ、サカキ)の拠点づくり</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>小規模・分散化している生産者を集約し、地域内の豊富な特用林産物(シキミ、サカキ)を収益につなげるため、地区単位での生産体制と集出荷体制の整備による拠点づくりを行う。</p> <p>【生産者、(財)本山町農業公社、土佐町森林組合】</p>	<p>○生産者を対象とした勉強会や研修会を実施することにより技術等向上を図ることができた。また、出荷者(生産者)との共同集出荷体制への打合せを重ねた結果、本格的な共同集出荷を実施することに至った。</p> <p>◆生産者の集約化及び栽培管理、束ね技術(出荷規格)の向上</p>	<p>◆共同出荷に向け各生産者を訪問 大豊町:3名、本山町:1名、土佐町:2名</p>
<p>15 大型製材工場の設置による地域材の利用の促進</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>大型製材工場の誘致により地域材の利用を促進し、林業従事者の増加や所得の向上、事業体による雇用の促進へとつなげる。</p> <p>【高知おおとよ製材(株)、大豊町】</p>	<p>○県外企業との誘致交渉の結果、平成23年9月に大豊町への進出協定締結が実現した。</p> <p>◆大型製材工場の設置及び原木供給体制づくりの検討</p>	<p>◆補助事業に係る事業計画書作成に係る県・町協議</p> <p>◆原木生産増大に向けた町・森組協議</p> <p>◆再造林に係る嵩上補助の大豊町要綱の制定</p>
<p>16 木質バイオマス利用拡大の取組</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>木質バイオマスの利用拡大と林業の活性化を図る。</p> <p>【民間事業者、本山町、大豊町、土佐町、大川村】</p>	<p>○木質バイオマス利用施設の導入により、木質資源の利活用が促進された。</p> <p>○工場残材の有効利用により、燃料コストの削減が成果として見え始めている。</p> <p>◆原木(C材)の安定供給体制の構築及び木質バイオマスの利用拡大</p>	<p>◆チップ工場竣工 ・補助事業名:高知県木材加工流通施設整備事業・総事業費217,569千円</p> <p>◆土佐町林地残材活用推進補助金 施行(4月1日)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	指標・目標
◆1-四半期 受注 1棟		【指標】木材の出荷量 【目標(H27)】900m3
◆ログハウス(大豊町) :18m3		【指標】町村発注工事の木材利用量 (H19:31m3) (H21:17m3) 【目標(H27)】24m3
		【指標】木工製品全般の売上金額 (H19: -) (H23:2.5千万円) 【目標(H27)】5千万円
		【指標】販売数量 (H19: -) (H23:604kg) 【目標(H27)】10,820kg
		【指標】製材品の生産量 【目標(H27)】55,000m3
◆チップ工場:5月7日操業開始		【指標】チップ材の取扱量 【目標(H27)】2,500t

＜嶺北地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>17 地域産品販売ポータルサイトによる商業展開・情報発信</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>地域産品を販売するポータルサイトを定着・発展させて、ネットビジネスの手段を持たない地域の事業者の所得の向上を図るとともに、地域の情報発信を行う。</p> <p>【(株)れいほく未来、ポータルサイト利用事業者】</p>	<p>○ポータルサイト「土佐さめうらe商店街」の開設による新たな販売チャンネルの創出</p> <p>○セット商品(ギフト用等)の開発掲載</p> <p>◆販売手数料等の運営体制の整備・見直し</p> <p>◆販売量増に向けた多面的な取組</p>	<p>・サイト掲載品目の更新</p>
<p>18 土佐産直サテライトセンター(とさ千里(大阪))の活性化による地産外商の促進</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>土佐産直サテライトセンター(とさ千里)を関西圏におけるアンテナショップとして、米粉を活用したビジネスの展開や、「れいほく八菜」をはじめとする嶺北地域や高知県の産品を取り扱う地産外商の拠点となるように取組を進める。</p> <p>あわせて、交流人口の拡大に向けた情報を発信する。</p> <p>【(株)とさ千里、JA土佐れいほく、土佐町】</p>	<p>○総合補助金の導入による米粉パン工房等の整備(H22)</p> <p>○野菜供給システムの再構築(H23)</p> <p>○関西における地産外商の拠点づくりがスタート(H22.9リニューアルオープン)</p> <p>(嶺北地域やその他の高知県産品の販売拠点)</p> <p>○米粉、米粉加工品の販売拠点としての活動</p> <p>◆経営戦略の見直しと実践による経営改善</p> <p>◆地産外商の拠点として店舗での県産品の販売拡大</p> <p>◆野菜供給システムの構築</p> <p>◆来客者増に向けたPR活動の展開</p> <p>◆サテライトセンター機能の充実・強化(地域特産品、観光・交流等の情報発信)</p>	<p>・催事(3回うちフェア参加1回)</p> <p>・木曜市12回開催(4～6月)</p> <p>・産業振興アドバイザー(米粉/パン製造技術)の導入</p> <p>・経営改善計画検証会議(3回)</p>
<p>19 嶺北地域の連携による交流人口の拡大</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>観光を軸として、吉野川の水源地域における豊富な地域資源や特色のある取組などを横断的につなぐ場と仕組みをつくることにより、「れいほく」の魅力をグレードアップさせるとともに、一元的な情報発信により、交流人口の拡大を目指す。</p> <p>【嶺北地域観光・交流推進協議会】</p>	<p>○嶺北地域観光・交流推進協議会の設立(H22.10)</p> <p>○4町村が連携した事業展開の開始</p> <p>◆4町村が連携した事業展開の継続・発展(PR活動、周遊ルートの設定等)</p> <p>◆コーディネートする組織(人)の発掘</p>	<p>・事務局体制を整備(職員1名採用)。</p> <p>・担当者会の開催(2回)</p> <p>・観光人材育成塾「とさ旅セミナー」スタート。</p>
<p>20 濁酒等を活用した地域資源との連携による地域の活性化</p> <p>《大豊町、本山町》</p> <p>地域の特産品となる濁酒等の製造・販売と地域の観光資源との連携によって、交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげる。</p> <p>【生産者、大豊町濁酒協議会、本山町濁酒協議会(予定)】</p>	<p>○濁酒製造免許取得(H22～23)</p> <p>H22.5 大豊町で濁酒製造を開始</p> <p>H23.4 本山町で濁酒製造を開始</p> <p>◆2町の取組の相互の活性化効果を狙った生産農家の拡充</p> <p>◆交流施策と連携した加工品開発や販促・PR活動の充実</p>	<p>(大豊町)</p> <p>・販促活動 延べ1日</p> <p>・生産技術指導 延べ2日</p> <p>・濁酒製造技術研修受講 1名</p> <p>(本山町)</p> <p>・販促活動 延べ2日</p> <p>・新たな免許申請 1名</p> <p>・濁酒製造技術研修受講 2名</p>
<p>21 白髪山、工石山を活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組</p> <p>《本山町》</p> <p>白髪山、工石山(奥工石)の有する豊かな自然、貴重な地質や森林資源などを活かした取組や嶺北地域の他の資源との連携も視野に入れた取組を進め、交流人口の拡大を目指す。</p> <p>【本山町白髪山・工石山保全活用推進協議会、本山町】</p>	<p>○活用、保全に向けた組織の設立</p> <p>○旅行会社との連携開始</p> <p>◆取組内容の構築</p> <p>◆ガイドの養成</p> <p>◆ツアーの受け入れ体制の確立</p> <p>◆歩道などのハード整備</p>	<p>○◆ガイド養成研修 2回 参加者16名</p> <p>○◆モニターツアー 1回 参加者14名</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】年間アクセス数 (H22:4.6千件) 【目標(H27)】1万件
		【指標】土佐産直サテライトセンター(とさ千里)の販売額 (H19 0.8億円) (H22 0.8億円) 【目標(H27)】1.2億円
		【指標】公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19:8,975人) (H22:9,687人) 【目標(H27)】12,000人 【指標】新たな旅行商品となる体験メニュー数 【目標(H27)】5件(累計)
		【指標】生産者数 (H22 1人) 【目標(H27)】5人
		【指標】ツアー参加者 【目標(H27)】200人

＜嶺北地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>22 早明浦ダムを活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組</p> <p>《土佐町》</p> <p>早明浦ダムでの釣大会の開催、遊覧船・ウォータースポーツなど湖面を活用したレジャープラン等の実施、また嶺北地域内の他資源とも連携して取り組む等、早明浦ダムを核とした交流人口の拡大を目指す。また、H23年度に組織した「さめうら湖の利用に関する検討委員会」の検討を踏まえ、宿泊施設等、湖面一帯の整備を図る。</p> <p>【民間事業者(早明浦湖面利用者協議会)等、土佐町】</p>	<p>○湖面利用者協議会の会長が土佐さめうら観光協会の理事となるなど、活動が地域に認識されてきた。</p> <p>○NPO法人さめうらプロジェクトとして法人格を取得(H24.4に認証)し、今後の活動に広がりが出てきた。</p> <p>○JBトップ50の開募戦会場に選ばれるなど、全国的にも進んだ取り組みをしていることが認識された。</p> <p>○土佐町において、さめうら湖の利用に関する検討委員会が組織され、委員長(高知大副学長)のもと、「水」をキーワードに、さめうら湖を中心とする土佐町全域の観光・交流の推進に向けた検討が始まった。</p> <p>◆事業推進母体の構築 ◆取組内容の構築 ◆宿泊施設や湖面利用設備などハード面の整備 ◆湖面を利用するための許認可等(河川法等)</p>	<p>■さめうらプロジェクトNPO法人取得の手続</p> <p>■チャプターさめうらの開催2回</p> <p>■JBトップ50開募戦開催</p> <p>■さめうら湖の利活用に関する検討委員会開催(1回)</p>
<p>23 棚田を活用した観光・交流人口拡大による地域活性化の取組</p> <p>《土佐町》</p> <p>土佐町の地域資源である「棚田」を活用し、体験ツアー実施や農家民宿・農家レストランの開設、オーナー制度の創設等により、観光・交流人口の拡大を図る。</p> <p>併せて棚田の名所である溜井部落の農業用水沿いの道を「セラビーロード」として整備し、土佐町への新たな誘客を図る。</p> <p>【(株)れいほく未来、NPO法人土佐さめうら観光協会、(株)とさ千里、土佐町】</p>	<p>◆事業実施主体の確立 ◆事業の中心となる推進役 ◆溜井部落住民の合意・協力 ◆溜井部落以外に棚田が多い集落との連携(高須、伊勢川、立割ほか)</p>	<p>■農水省「食と地域の交流促進対策交付金」採択:220万円定額(H24～H25年度)</p> <p>■田植えツアーの実施(6/2～6/3)</p>
<p>24 滞在型市民農園の推進による地域の活性化</p> <p>《本山町》</p> <p>滞在型市民農園を整備し、都市部の住民の農業や田舎暮らしへの関心を高めて地域への移住につなげ、産業の活性化、雇用の創出、交流人口の拡大、農業の担い手づくり等による地域の活性化を図る。</p> <p>【本山町】</p>	<p>○整備、運営に向けた組織の設立</p> <p>◆滞在後の移住に向けた支援 ◆地域住民などと連携した移住希望者の受け入れ体制の確立</p>	<p>○◆本山町市民農園整備推進協議会の開催 2回</p> <p>○◆準備工事(アクセス道の拡幅)の着手</p> <p>○◆補助金の活用(社会資本整備総合交付金地域優良賃貸住宅整備事業、高知県移住促進事業費補助金)</p>
<p>25 嶺北地域の連携による移住促進の取組</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>4町村が各町村内の空き家や農地等の情報を収集して嶺北地域の移住に関する情報をデータベース化し、嶺北地域に移住しやすい環境を整えることにより、嶺北地域への移住・定住人口の拡大を図る。また、観光・交流の取組とも連携して、地域の情報発信を行い、観光・交流から移住に繋げる取組を実施する。</p> <p>【れいほく田舎暮らしネットワーク、本山町、大豊町、土佐町、大川村】</p>	<p>◆仕組みづくり ・町村とRINとの役割分担 ・検討の継続(緊急雇用事業終了後) ・各町村での取り組みと嶺北広域での取り組み方向性の整理</p> <p>◆移住希望者のニーズ把握</p> <p>◆受入体制整備(ソフト・ハード)</p>	<p>■移住促進連絡会の開催3回</p> <p>■仕事情報把握ワーキンググループの開催2回</p> <p>■事業所等への仕事情報提供依頼10回</p> <p>■Uターン就職相談会への参加2回</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
■NPO法人取得(4/4)		【指標】 さめうら荘利用者(宿泊・レストラン)数 (H22:2万人) 【目標(H27)】 2.5万人
■田植えツアー:計約50名参加 ■事業推進体制が確定した(溜井部落振興協議会)		【指標】 受入活動取組団体数 【目標(H27)】 3団体
		【指標】 町内移住者 【目標(H27)】 30人(累計)
■仕事情報把握フローの策定		【指標】 移住者数 【目標(H27)】 100人(累計)

＜嶺北地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>26 小水力発電の導入による地域活性化の取組</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>地球温暖化防止対策等として再生可能エネルギーの利用の関心が高まっているなか、地域の豊富な水資源を活用して小水力発電を導入することにより、再生可能エネルギー取組の先進地として地域の活性化を図る。</p> <p>【本山町、大豊町、土佐町、大川村】</p>	<p>○新エネルギー等導入推進委員会設立 (H23.9:土佐町)</p> <p>○小水力発電ポテンシャル調査研究(H23年度:本山町)</p> <p>本山町内の自然河川(18河川)、農業用水路(6水路)で水力発電賦存量調査を実施</p> <p>○小水力発電市町村支援事業の調査(H23年度:公営企業局)</p> <p>嶺北地域では、8地点(大豊町:2、土佐町:3、大川村:3)で現地調査を実施し、そのうち3地点(大豊町:1、土佐町:1、大川村:1)で可能性調査報告書を作成。</p> <p>◆各町村で取り組みを進めていくための組織づくり</p> <p>◆発電事業の目的の整理</p> <p>◆発電可能な地点の抽出</p>	<p>・4町村情報共有・意見交換会(1回)</p>
<p>27 地域内高校と連携した将来の担い手育成に関する取組</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>地域内高校(嶺北高校)と連携し、高校の課外活動の中で地域産業の担い手育成プログラムに取り組むことを通じて、地域産業の次代の担い手育成を進める。また、地域と連携した特色ある高校づくりをすすめることで、地域に必要な学校としての存在意義を高める。</p> <p>【(株)れいほく未来、嶺北高校、本山町、大豊町、土佐町、大川村】</p>		<p>○◆参加する生徒数 12名</p> <p>○◆関係者との協議 4回</p> <p>○◆試作品の検討 7品目</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 導入施設数 【目標(H27)] 7カ所
		【指標】 商品提案数 【目標(H27)] 5件(累計)